

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年10月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	1276000138		
法人名	有限会社 弥生・トータル・プランニング		
事業所名	グループホーム もちの木		
所在地 (電話番号)	千葉県山武市上横地70-2		(電話) 0475-82-5780
評価機関名	日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	2007/10/1		

【情報提供票より】(19年 9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		名	要介護2 4 名
要介護3	5 名		要介護4 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩崎病院(ホームドクター)・八街総合病院
---------	----------------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地のなか、3本のもちの木が目印の、グループホームもちの木がある。広い敷地のなかに建てられた平屋建てのホームは、採光が考えられており、リビングはもちろん居室も明るい空間になっている。玄関には、地域のボランティアの方が描かれた絵画が飾られていて、地域との交流が視えます。家庭的な雰囲気・尊厳・寄り添うケアを心がけているとの言葉の通り、暖かみのあるどこか懐かしい感じがするグループホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果報告をご家族に文章を送り、指摘された地域との交流を深める努力をしている。家族交流についても毎月写真入りの新聞を発行、2ヶ月に1回は近況を報告している。入浴回数についても、その後、検討現在は改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全項目に対して向上を望んでおり、今後も前向きな取り組みをしていきたいとの姿勢がうかがえる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、近隣住民・山武市職員・入所者ご家族・ボランティア・職員で開催している。行事内容と参加状況・困っていること等が議題である。ホーム内での出来事は、全て公表し、皆でその都度話し合っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱はあるものの、利用されたことは無く、直接、ご家族・ボランティア・近隣の方から意見をもらう事が多い。意見があった場合は、その都度、話し合いを行いサービスの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者が、山武市のキャラバン隊のサポートをしており、地域からの相談が多い。相談があった場合は、その都度、市・包括センターなどに問い合わせをしながら相談者のニーズにあったサービスが提供出来る方法を一緒に考えている。また、地域からのボランティアの参加も多く、地域からの来訪者が多い。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念「もちの木理念5か条」を作っている。利用者本位、職員の心構え、地域と利用者のかかわりあい、が盛り込まれた、具体的で理解しやすい理念である。地域密着を意識した上で日頃から、行政と連携を取りながら地域づくりの一員としてやっていきたいと心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「もちの木理念5か条」を玄関の眼につく所に貼り出している。会議では毎回理念を盛り込んだ話し合いをしており、また、全職員が理念を携帯し、日々理念の実現に向けて、あらゆる分野に働きかけをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のお祭り等に参加している。食事に、地域で収穫したお米を使っている。入居者が雑巾を作り、近くの障害者施設に届けており、支援を受けるだけでなく、援助もするというので、地域と密接にかかわっていかうとする姿勢がうかがわれる。散歩コースでも、地元の人達との交流が多く、ボランティアの受け入れにも積極的に、施設内の展示物、写真がそれを物語っている。管理者が山武市のキャラバン隊に参加していることから、地元の方から相談を受けることも多くなってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価後、すぐに改善会議を開き、今の現状を把握し、積極的に改善に取り組んでいる。評価結果についても、入居者のご家族に文書で報告し、その後の改善状況についてもお伝えしている。		

【千葉県】グループホームもちの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。ご家族・山武市・近隣住民・ボランティア・職員が参加し、行事案内や行事への参加状況などの説明を行っている。ホーム内での出来事・ご家族からの意見などを議題に話し合いを行っている。また、医療機関等の専門家からも意見を聞いて、サービスの向上に努めている。		

【千葉県】グループホームもちの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	山武市のキャラバン隊に参加しており、山武市主催の講習会の講師の要請もあり、市と関わるが多い。キャラバン隊の認知症のサポーター役をつとめている。また、地域の方からの相談については、市・包括センターや関わりのある関係機関と連絡を取り合いながら話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、ご家族に写真入りの新聞を発行し2ヶ月に1回は入居者の近況報告も同封している。また、金銭の預かりはしていないものの、必要があれば、ホームが立替をし出納帳を作成している。ご家族の来訪時に確認してもらい精算する方法を取っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱は設置してはいるものの、利用された事は無い。ご家族・ボランティアの方から口頭で意見があった場合は、その都度話し合いを行い、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職時の報告はしていない。入職時には、入居者との信頼関係が築けるまで、馴染みの職員と新しい職員が一緒に過ごす事を心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部及び内部研修を行っており、職員の質の向上に努めている。また、ケースごとの介護方法についても研修内容を振り返りながら、検討している。地域のグループホームが集まって認知症の講習会を開きたいと現在、検討中である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を2ヶ月に1回開催し、情報交換及び意見交換会を行っている。また、他の施設の職員との交流を深めるとともにお互いのサービスの質の向上に努めている。今後はグループホーム連絡会による、各ホームの見学会・全体研修会を計画している。		現在、計画している各ホームの見学会・全体研修会が実現し、各ホームのサービスの向上につながることを期待します。また、お互いが情報交換をすることで、地域の多様なニーズに対応してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居時には、長年自宅で馴染んでいた家具などが持ち込むことにより、安心できる生活環境作りをしている。入居前には、必ず見学をしていただき、場合によっては、お試し入居をしている。これまでの家族関係を崩さないように、ご家族との面会・外出なども自由とし、ご家族に宿泊してもらうことも可能である。職員も入居者一人一人の気持ちに寄り添い、自分らしい生活が送れるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者から思いやりのある言葉をいただくことが多く、これまでのその方の過ごしてこられた時間を感じることもある。学びも多く、職員自身がこれからの人生を考えさせられることもある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常と違う小さな変化に、職員が気付くことが大切な事だと思っている。観察をすることで入居者の変化を察知し、家庭的な温かさで受け止め、阻止する事なく、本人の思いのままに過ごすことにより、気分が落ち着くように職員は見守りを心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の基本情報を考慮しながら、職員全員でアイデアを出し合っている。また家族、入居者の意見を取り入れ介護計画を作成している。</p>		

【千葉県】グループホームもちの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度、見直し時にカンファレンスを行っており、入居者の生活状況の変化をご家族に説明した上でプランの見直しを行っている。また、医師の意見も取り入れながら計画を作成している。専門性を取入れながら支援の見直しを行っている。		

【千葉県】グループホームもちの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が円滑に一時帰宅できるように住環境の調査を行っている。要望により、家族の健康相談を受け付けている。また、緊急時には介護保険対象外の一時入所も受け付けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院が決まっている。専門分野についても、ホームドクターが仲を持ち紹介してもらっている。往診が月2回、通院・検査も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、開設から事例がない。ケースが出てきた場合は現状を主治医に相談した上で、家族と共にその後の方針を決定していきたいと考えている。現在は主治医との連携体制を構築している段階でまだ完全に確立できていない。		今後の入居者の重度化及び終末期に向けた対応を想定し、早い段階でのケア方針及び関係者との連携体制の確立を希望する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入所時、同意書を交わしており、個人情報の取り扱いについては、十分注意をしている。また、一人で過ごす事を好む入居者には無理強いすることなくその人気持ちを尊重しながら対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、入居者の体調・気分の良し悪しを考慮し、希望を優先した支援を行っている。玄関に椅子があり、入居者が望めば職員に見守られながら、一人になれるよう配慮している。		

【千葉県】グループホームもちの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	こちよい音楽が流れる中、入居者のペースでゆったりと食事をしている。おのおのができる範囲で調理・盛り付け・後片付け等に参加しており、毎回の食事を楽しみにしている。また、調理の参加希望者が多い為、当番制にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週4回行くと共に清拭を毎日2回行っている。入浴時間は特に決めておらず入居者の希望に沿って行っている。入浴を拒否する入居者がいた場合は、気持ちを受け止めた上で、シャワー浴や清拭を行い清潔保持に努めている。入浴の無い日は、足浴・シャワー浴で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意分野を生かして折り紙やぞうり等の作品作りや料理等を行っている。そのほか施設内の季節感を出す為に、入居者・職員・ボランティアが協力し合い模様替を行っている。入居者の希望により散歩や外出会を行い気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日実施している。散歩を好まない入居者については、うまく声をかけ少しでも外出する機会を作るように心がけている。外出先も工夫しており、入居者の家族を訪問することもある。また、外出時の写真を施設内に掲示することにより楽しみを共有している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠はしていない。玄関が開閉されると、チャイムが鳴るようになっている。また、外の門についても開放している。夜間のみ玄関先ブザーを置き人が通ると鳴るようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回 消防訓練を行っている。地域との協力体制もあり、救命救急の講習等も行っている。消防署・警察・地域の方々との連携により災害時の避難場所も決めている。		救命救急講習は今後も継続していただくことを望みます。災害時には地域の一員としてノウハウを生かした貢献、安全の提供、協力支援など、「グループホームもちの木」が作る独自の災害対策を地域に発信していただきたい。社会的責任遂行は地域との絆を強めることになり、職員のサービス意識向上にもつながると思われる。

【千葉県】グループホームもちの木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の提供については、個人の状態や嗜好を把握した上で適切なされている。ほとんどの方は全量摂取しており、栄養が足りないと思われる時は、他の物(おやつなど)で補給している。体調がよくない時は、時間をずらして食事取ることも可能である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が持てるよう、毎月季節のはり絵が作成され、壁に掲示されている。また、サンデッキに新たにゆっくりできるようなスペースを作りたいと考えている。構造上施設内はとても明るく、見晴らしも良い。毎日の洗濯や布団干しなどまめに行うことにより、においや清潔に配慮している。		サンデッキの新しくできるスペースが入居者の方が居心地よく過ごせる空間がまた一つ増えることと期待したい。サンデッキを作る際、入居者・家族・ボランティア・職員などかわりのある人達からアイデアを募集してみてもよいのではないかと。協力することにより、よりいっそうの結びつきをもたらす、これまで以上にグループホームの理解を得ることができるようではないのか。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、クローゼットが広く、自宅から持ち込まれた馴染みの家具などに囲まれながら、新しい生活が出来るように工夫されている。また、家族が入居者のために部屋のコーディネートをすることも推奨しており、本人・家族共に居心地の良い環境作りを行っている。		